

ステレオレコードプレーヤー

PL-50L

取扱説明書



このたびはパイオニアのPL-50Lをお買い求めいただきましてありがとうございます。

この製品はパイオニアの長年の技術と経験を生かして一貫した品質管理のもとに設計、生産されたステレオレコードプレーヤーです。

ステレオコンポーネントを正しく接続、操作してステレオ演奏を楽しんでいただくため、この取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになった後は保証書と一緒に保管し、使用中にわからない事があったときに手引きとしてご利用ください。

目 次

アフターサービスについて	2
特 長	2
ご使用の前に	3
各部の名称	4
組 立	5
設置について	7
ステレオアンプへの接続	7
トーンアームの調整	8
各部の名称と使い方	11
演奏のしかた	12
ダンピング機構の効果的な使い方	13
保 寸	14
本機の輸送について	14
故障? ちょっとお調べください	15
仕 様	16

PIONEER®

アフターサービスについて

- 故障と思われるときは、修理を依頼される前に必ず15頁の“故障？ちょっとお調べください”の事項を確認してください。意外な操作ミスが故障と思われる場合があります。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。万一故障が生じたときは、本機の電源コードをコンセントから抜き、付属のサービスネットワークをご覧の上お近くのバイオニアサービスセンター、サービスステーションに電話で下記事項をご連絡ください。保証書に記載されている保証規定および修理規定に基づき、修理させていただきます。
 1. 品名、型番……「レコードプレーヤーPL-50L」
 2. 故障の内容……「ターンテーブルがまわらない」「音がでない」など
 3. お買い上げ年月……○年○月
 4. お名前、住所、連絡先電話番号
 5. ご希望訪問日……○月○日
 6. ご自宅までの道順と目標物(建物、公園など)
- 保証期間(1年間)経過後の修理については、最寄りのバイオニアのサービスセンター、サービスステーション、またはお買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料にて修理します。
- 本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。

- 最低保有期間は通商産業者の指導によるものです。
- 补修用性能部品とは、この製品の機能を維持するために必要な部品です。

本機に関するご質問、ご相談は最寄りのバイオニアオーディオインフォメーションセンター(AIC)をご利用ください。なお、AICの所在地および電話番号は、付属のサービスネットワークをご覧ください。

特長

本機は、レコードプレーヤーの基本部品となるフォノモーター、トーンアーム、キャビネットを、個々の持つ性能、機能を音質本位に徹して追求し、各部品単体としても優れた性能を持つものを作りました。また、レコードプレーヤーシステムとしても高忠実度再生を実現し、オーソドックスなシステムを形成するとともに、操作性を考慮した操作スイッチ配慮など、シンプルなデザインの高級感。重量感あふれるレコードプレーヤーです。

Quartz PLL プラシレス DC ホールモーター

モーターの回転子に組み込んだ周波数発電機の出力波形と、水晶振動子を用いた高精度基準発振器の波形を比較してモーターの回転数を制御する Quartz PLL 方式を採用。時間、温度ドリフト特性や耐負荷特性が優れているため、常に正確な回転数を維持します。

SHローター方式の軸受構造

フォノモーターの回転数精度や、耐負荷特性の優れた Quartz PLL ダイレクトドライブホールモーターに、回転軸部の重心を低く設定した SH ローター(stable hanging rotor) 方式の軸受構造を採用しました。これにより、慣性質量 330kg・cm²(ゴムシート含む) のターンテーブルの組み合わせとあいまって、0.012% 以下(FG 法) の優れたワウフラッター特性を実現しました。

ダンピング機構付の高性能トーンアーム

トーンアームの軽等価質量化に加え、質量を回転軸に集中したマスコンセントレーション方式と、高信頼性のシリコンオイルを使用したダンピング機構(解除可能)を装備したことによって、トレース能力の向上と低音域の大振幅再生時に発生する混変調歪を大幅に低減しています。

オートアップ／オートストップ機構とクイックストップ機能

演奏が終了すると、自動的にトーンアームが上昇し(オートアップ)、ターンテーブルの回転が停止(オートストップ)します。また、ターンテーブル停止時は、モーターの回転方向と逆方向の電流をモーターコイルに流して、瞬時に停止させる純電子式のクイックストップ機能を装備しています。

ハウリングに強い低重心型インシュレーター

振動を吸収するインシュレーターの構造を、高い位置に設定し、キャビネットやターンテーブルの重心が低い位置になるようにしています。このため、プレーヤー本体が安定し、床からの振動やスピーカーシステムからの音圧の影響を受けにくく、高いハウリングマージンを得ています。

ご使用の前に



保証書の手続きについて

- お買い求めの際、必ず購入店で保証書に「販売店名」、「販売年月日」を記入の上お受け取りください。



取扱説明書、保証書の利用と保存について

- 本機の性能や機能を、十分に發揮させてレコード演奏をお楽しみいただくために、ご使用の前に取扱説明書を最後までお読みください。お読みになったあとは保存して、使用中不明な点が生じたときや、本機の保守、点検などにご利用ください。
- 保証書は、記載事項を良く確認してから取扱説明書、サービスネットワークと一緒に大切に保存してください。保証書を紛失されると、保証期間中であっても保証が無効となり、無償で修理が受けられなくなることがあります。



電源および電源周波数

- このプレーヤーは交流(AC)100V用です。一般家庭の100V電源をご使用ください。なお、交流電源を直流にしてモーターに加えていますので国内であれば電源周波数が50Hz、60Hzのどちらの地域でもお使いになれます。



電源コードの取り扱い

- ぬれた手で電源プラグを取り扱わないでください。感電する場合があり大変危険です。
- 電源コンセントから電源コードを抜く場合はプラグ部を持って行ってください。コードを持って引っ張るとコードが破損する原因になります。
- 電源コードを、本機や他のステレオ機器などの下に敷いたりして傷付けないようにご注意ください。また別のコードとより合わせてつないだり、むすび目をつくることもおやめください。以上のようない状態で使用すると、火災や感電の危険があります。

- 電源コードがいたんだ場合は、ハイオニアのサービスセンター、サービスステーション、またはお買い求めの販売店に交換を依頼してください。



設置、接続について

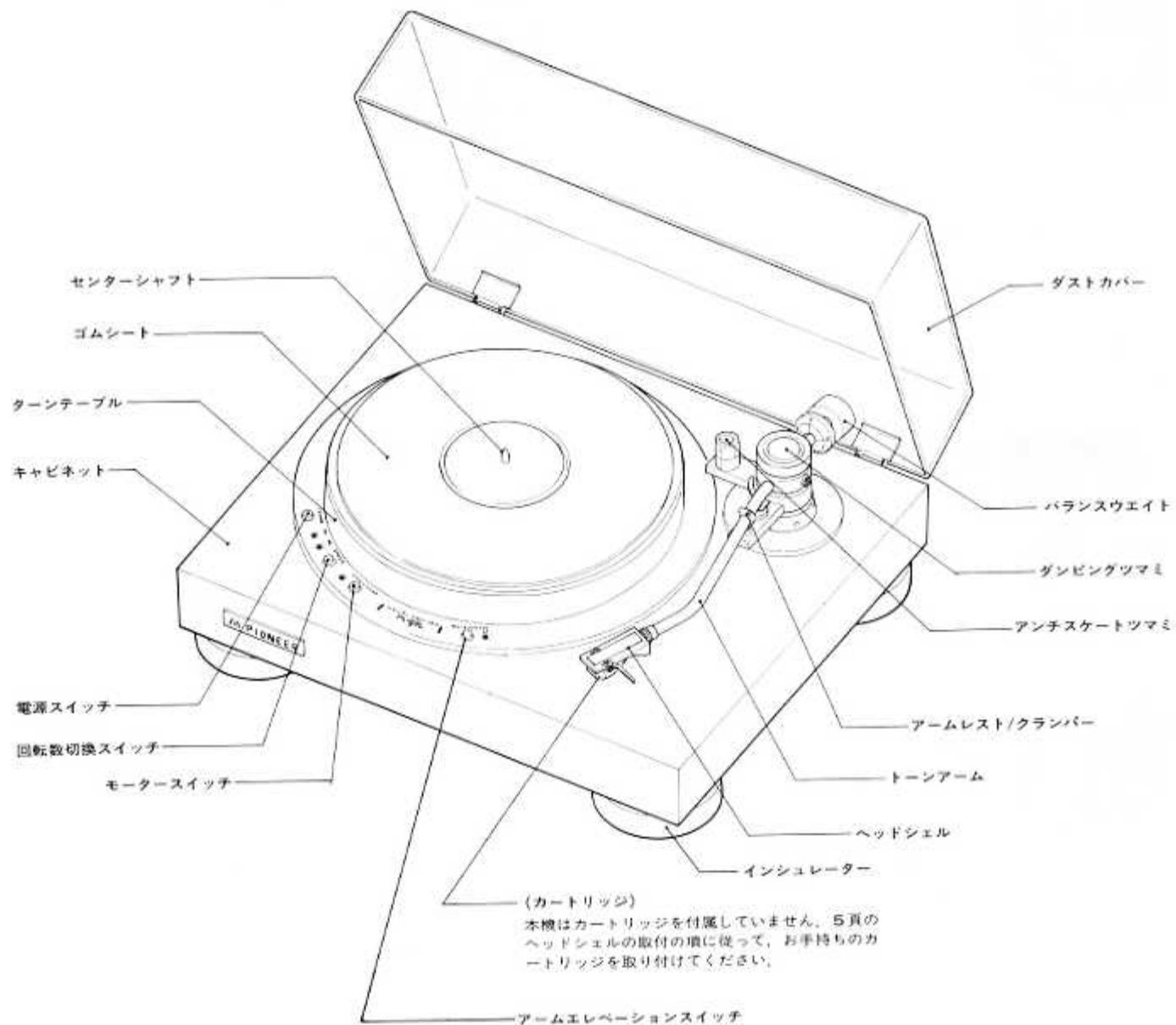
- このプレーヤーの設置、接続は7頁を良く読んでから行ってください。不完全な設置方法や接続を行うとハウリングや針飛び、ハムなどが発生して、レコードを忠実に再生することができません。



取扱上の注意

- モーターを回転させる場合は必ずターンテーブルを取り付けてください。ターンテーブルを取り付けないとモーターは正常に回転しません。
- カバーを外して内部に触れたり、改造することは絶対にしないでください。改造した場合の性能および故障については、当社では保証できません。
- このプレーヤーを冷えさった状態のまま暖かい室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりしますと動作部に露が生じ、本機の性能を十分發揮できなくなる場合があります。このような場合には1時間程度放置するか、徐々に室温を上げてからご使用ください。
- 50Hz地域では、このプレーヤーのターンテーブルに市販のストロボスコープをのせ、一般家庭のけい光灯で見ると45回転の縞が流れ見えます。市販のストロボスコープは50Hz、45回転においてコマ数が計算上割り切れないために端数を切り捨てています。このため正しい回転に対しては、ある程度の誤差を生じるだけ縞が流れ見えます。

各部の名称



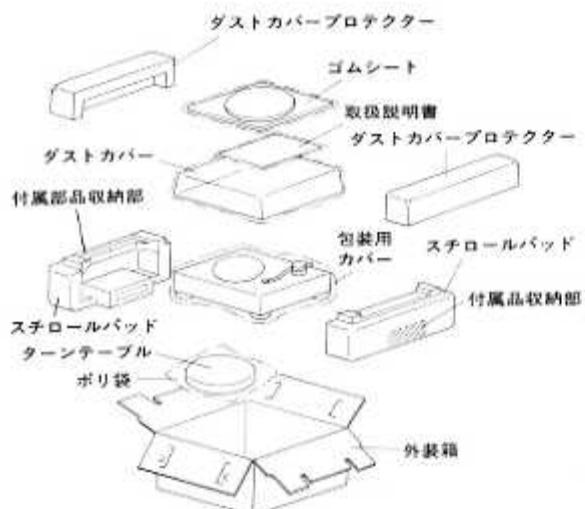
組立

組立手順に従って各部品を確実に取り付けてください。

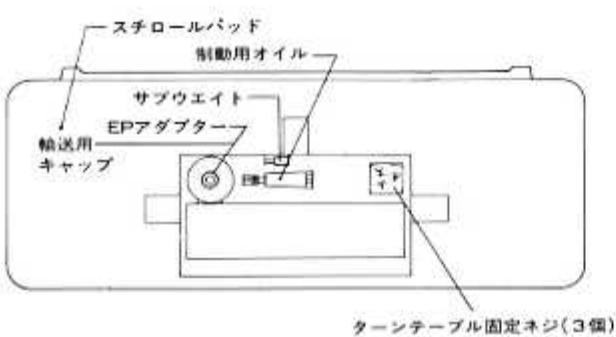
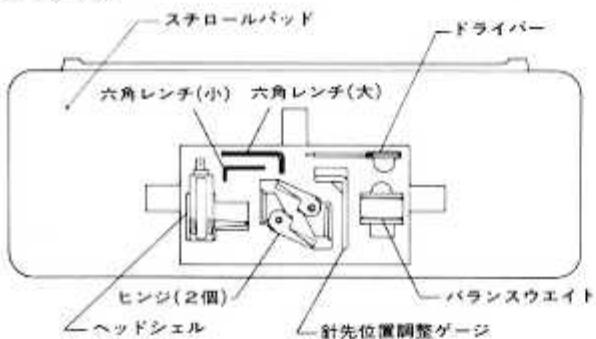
①付属品の確認

本体を梱包しているスチロールパッドに、図のような部品を収納してありますので確認してください。

EPアダプターはドーナツ盤を演奏するときに必要です。なくさないように保管してください。

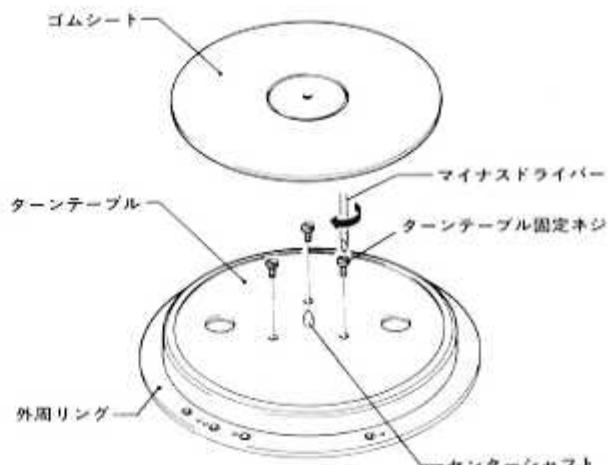


付属品収納部



②ターンテーブルとゴムシートの取付

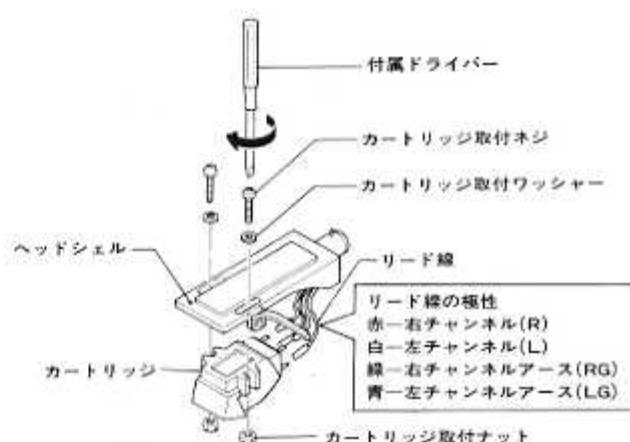
1. ターンテーブルをセンターシャフトや外周のリングに強く当てるないように、静かにセンターシャフトにはめ込みます。
2. ターンテーブルの穴とネジの位置を合わせてから、付属のターンテーブル固定ネジ(3本)をマイナスドライバーで締め付けて固定します。
3. ゴムシートをターンテーブルの上にのせます。



③ヘッドシェルの取付

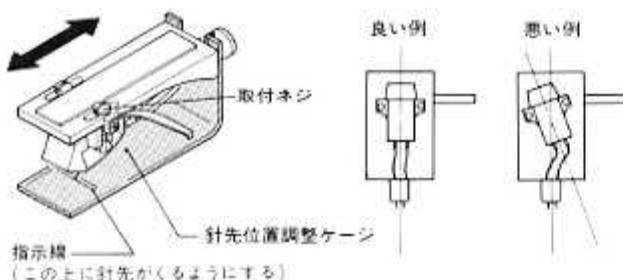
カートリッジを取り付ける

1. 図のように、付属のヘッドシェルにお手持ちのカートリッジを取り付けます。取付ネジは、後で針先位置の調整がありますので軽く締めてください。
2. 極性を間違えないようにリード線を接続します。



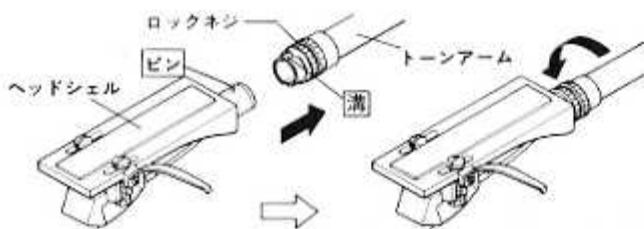
3. 付属の針先位置調整ゲージを、図のようにヘッドシェルにセットし、ゲージの指示線に針先がくるようにカートリッジを前後に動かして調整します。

次に、カートリッジがヘッドシェルに対して曲がりのないことを確認し、取付ネジを付属ドライバーで締め付けて固定します。



ヘッドシェルを取り付ける

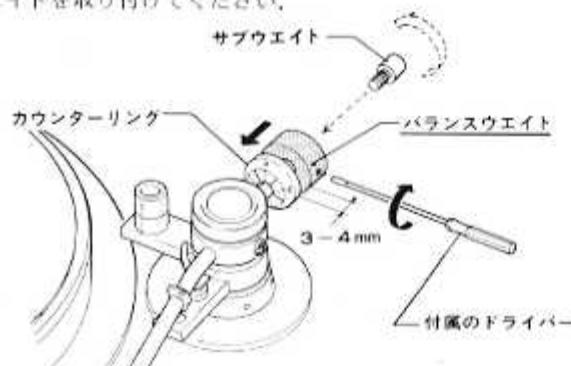
トーンアームの先端の溝とヘッドシェルのピンを合わせてヘッドシェルを確実に差し込んでから、ロックネジを図の矢印の方向へ止まるまで回して固定します。



4 バランスウェイトの取付

バランスウェイトを、トーンアーム後端のカウンターリングに差し込みます。次にウェイトとカウンターリングのすき間が3~4mm（カートリッジの自重により多少すき間を変えた方が良い場合があります）になるようにウェイトの位置を調整し、付属のドライバーでネジを回して確実に固定します。

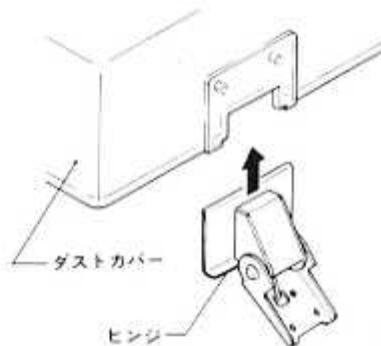
カートリッジの重さが10g~13gの場合は、図のように付属のサブウェイトを取り付けてください。



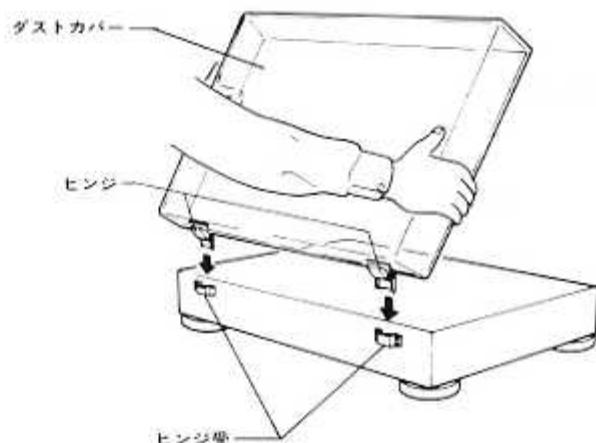
自重13g以上のカートリッジ（オルトフォンSPU/GTなど）をご使用の場合は、別売のバランスウェイトJP-507をお買い求めの上、取り付けてください。

5 ダストカバーの取付

1. 付属のヒンジ（2個）を、図のようにダストカバーへ差し込んで取り付けます。



2. 両手でダストカバーを持ち、キャビネットの後側のヒンジ受け、ダストカバーに取り付けたヒンジを差し込み、下へ押し込みます。

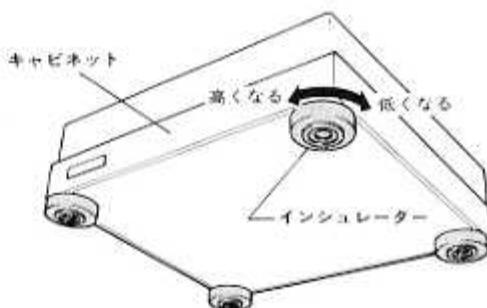


設置について

- 本機は重いので、設置するときは、取り扱いに十分気を付けてください。
- トーンアームを正しく調整するために、トーンアームの調整を行う前に設置してください。

キャビネットの高さ(水平)調整

1. 本機を設置します。
2. 図を参考にして、各インシュレーター(4個)を回してキャビネットが水平になるよう調整します。なおインシュレーターは、キャビネットを少し持ち上げてから回してください。



設置上の注意

- 本機の性能を十分発揮させて正常なレコード演奏をお楽しみいただくために、下のような事項に注意してください。

性能の低下や故障の原因になりやすい場所	症状と危険性
<ol style="list-style-type: none">直射日光を受けたり、暖房器具などからの発熱を受ける場所。寒冷地で温度が極端に変化する場所。傾斜があり、水平を保てない場所。ゴミやホコリの多い場所。振動の多い場所、特にスピーカーシステムのそばなど。ベンジンやシンナーなどが近くにある場所。塩気の多い場所。	<ol style="list-style-type: none">周囲温度が上昇したり、急激に低下すると回転部やカートリッジに悪影響を与える。また、温度の極端な変化により動作が不安定になることがある。適正な針圧値が得られなくなり、正常な動作を妨げる。静電気を帯びたレコードの音みぞにゴミなどが付着し、スクラッチ雑音（バチバチという音ができる）の原因となる。スピーカーからの振動が床を伝わり、プレーヤーを振動させてハウリング現象を起こす（スピーカーからウォーンという音ができる）。ダストカバー やキャビネットの表面が優されたり変色する。各部品に錆が発生して、正常な動作を妨げる。

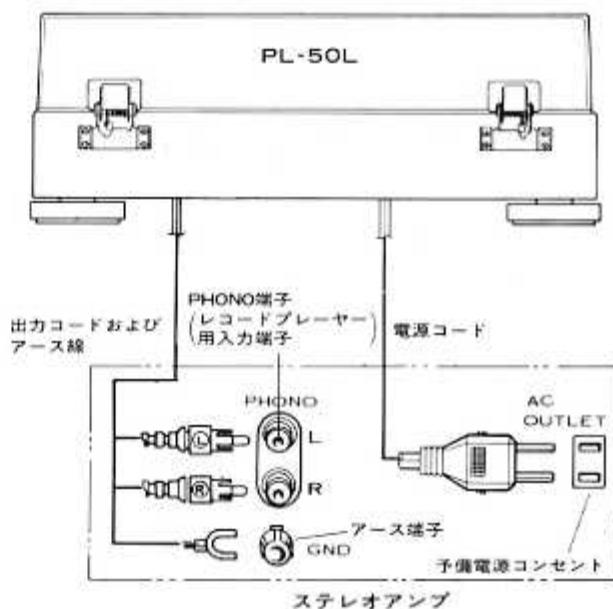
ステレオアンプへの接続

接続の前に

- 接続するステレオアンプの電源スイッチを切ってください。
- 特に、低出力のMC型カートリッジをお使いになる場合は、MCトランジスタやMCアンプ内蔵のステレオアンプが必要になりますので、カートリッジやアンプの取扱説明書に従って接続してください。

接続手順

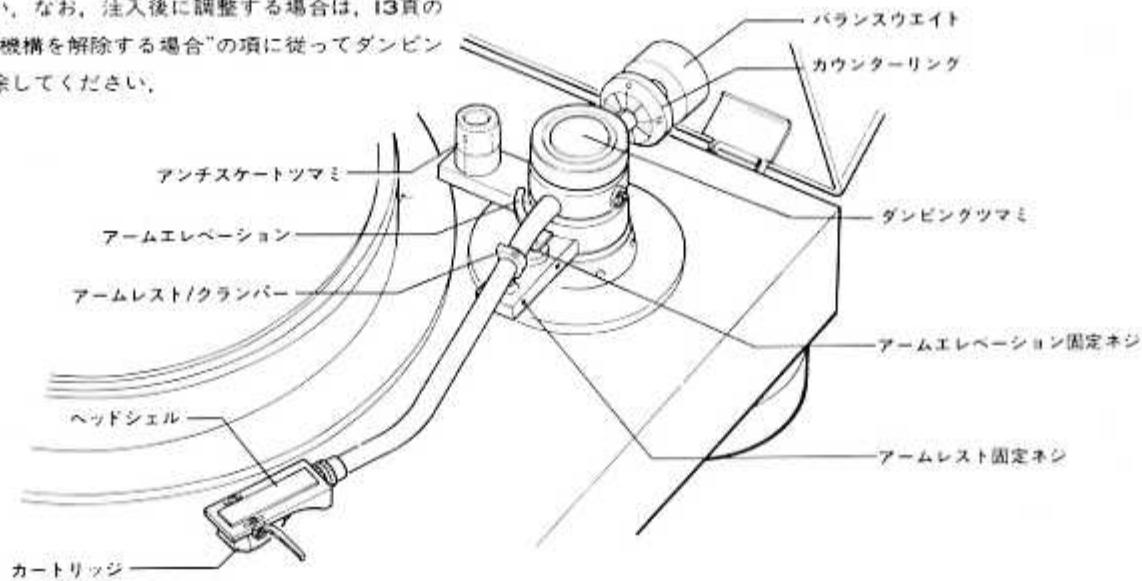
1. 本機の出力コードを、ステレオアンプのPHONO端子に差し込みます。このとき白いプラグを左チャンネル(L)、赤いプラグを右チャンネル(R)につないでください。
2. 出力コードのアース線をステレオアンプのアース端子(GND)につなぎます。
3. 電源コードをステレオアンプの予備電源コンセント(AC OUTLET)、または壁などの電源コンセントにつなぎます。



トーンアームの調整

- トーンアームの調整は、レコード盤の再生音に大きな影響を与えます。本機の組立や設置、ステレオアンプへの接続が完全に終わってから、正確に行ってください。
- 調整は、制動用オイルをトーンアームへ注入する前に行ってください。なお、注入後に調整する場合は、13頁の“ダンピング機構を解除する場合”の項に従ってダンピング機構を解除してください。

- カートリッジやヘッドシェルを交換して、トーンアームの調整をし直す場合は、5頁の“ヘッドシェルの取付”的項に従って針先位置の調整や、トーンアームへの取付が終わってから調整してください。

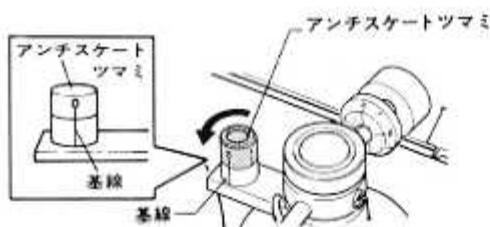


①針圧の調整

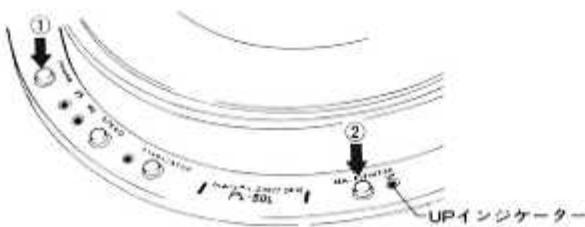
針圧の調整は正確に行ってください。正しく調整されていないと、再生音がひずんだり、針飛びを起す場合があります。

水平バランスを調整する

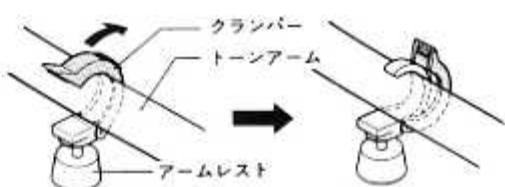
- アンチスケートツマミを図の矢印の方向に回して、“0”的位置を基線に合わせます。



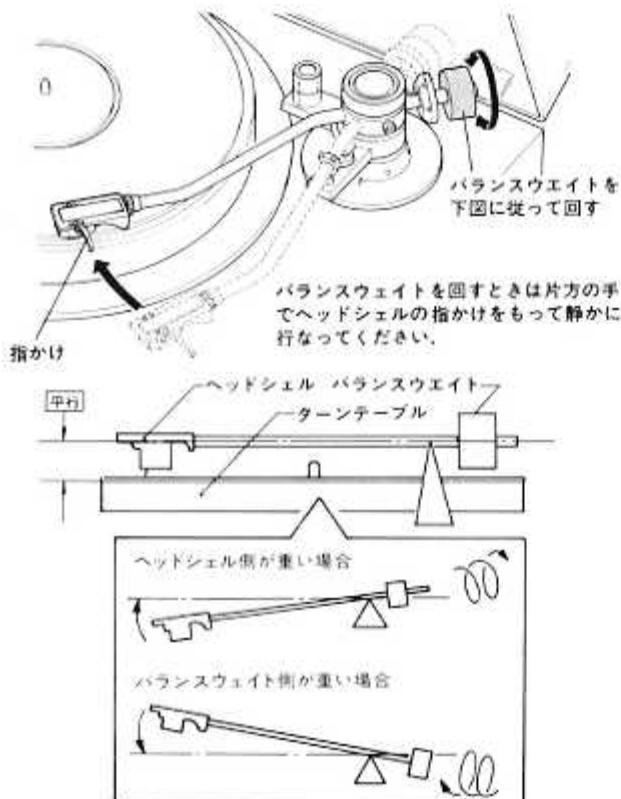
- 電源スイッチ①を押して電源を入れ(ON)，次にアームエレベーションスイッチ②を押します。このとき、アームエレベーションスイッチのUPインジケーターが消えます。



- カートリッジに針カバーが付いている場合はカバーを外します。
- アームレストのクランバーを、図の矢印の方向へ動かします。このとき、トーンアームが固定が解除されますのでトーンアームが動き出します。針先をターンテーブルなどにぶつけて破損しないようにトーンアームを押してください。



- ヘッドシェルの指かけを持ち、トーンアームをターンテーブルまで静かに移動します。なお、水平バランスの調整が終わるまで、カートリッジの針先がゴムシートに触れないように、手でトーンアームを支えてください。
- 5項の状態のままで、もう一方の手でバランスウェイトを持ちます。図に従ってバランスウェイトを左右に回し、トーンアームがヘッドシェル側にも、バランスウェイト側にも傾かないで、ターンテーブルと平行になるように調整します。



- アンチスケートツマミが“0”以外のとき、アンチスケーティング機構が働いてトーンアームが右側(アームレストの方向)へ流され、調整できません。必ず“0”的位置で行ってください。なお、“0”的ときでも左右へわずかに流れることがあります。これは、演奏時にトーンアームがレコード盤の音みぞを良くトレースするよう、トーンアームの回転感度を高くしているため、使用上の支障はありません。
- バランスウェイトを回しても水平バランスが取れない場合は、バランスウェイトの固定ネジを付属のドライバーでゆるめて、取付位置を前後に変えてみてください。

7. トーンアームをアームレストに戻し、クランバーでトーンアームを固定します。

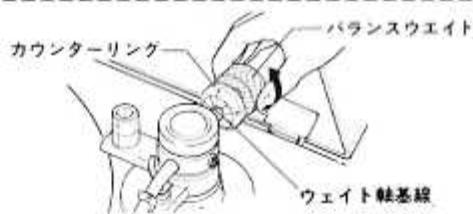
針圧を加える

- カウンターリングを回して、ウエイト軸の基線に“0”を合わせます。このとき図のように、もう一方の手でバランスウェイトが一緒に回らないように押してください。バランスウェイトと一緒に回ると水平バランスがくぐり、針圧が正しく加わらなくなります。



- バランスウェイトのみをつかんで図のように矢印の方向へ回すとカウンターリングも同時に回ります。カウンターリングの目盛がカートリッジの適正針圧と同じ数値になるようにウエイト軸基線に合わせます。カウンターリングの目盛は1目盛0.1gで、バランスウェイトを1回転させると1gの針圧が加わります(例:針圧2gの場合はバランスウェイトを2回転させます)。

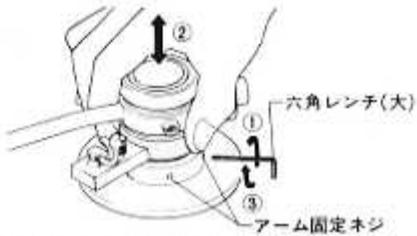
別販売のバランスウェイトJP-507をご使用の場合は、1目盛が0.15gになりますのでご注意ください(0.2の位置で0.3g、0.6の位置で0.9g、ウエイト1回転で1.5gの針圧が加わる)。



②高さの調整

トーンアームの高さが正しく調整(レコード盤と平行の状態)されていないと、カートリッジの針先がレコード盤の音みぞに正しい角度で接しないため、再生音がひずむことがあります。

- ターンテーブルの上にレコード盤を1枚のせます(ゴムシートを必ずレコード盤の下に敷いてください)。
- トーンアームを移動して、カートリッジの針先をレコード盤の上へ静かにのせます。
- 図のようにトーンアームを持ち、アーム固定ネジ(2箇所)を付属の六角レンチ(大)で矢印の方向①へ回してゆります。次に、図の印部を持ってトーンアームを上下②に動かし、トーンアームがレコード盤と平行になるように調整します。
- 3項の状態のまま、アーム固定ネジを③の方向へ回して締め付け、トーンアームを固定します。このとき、アーム固定ネジは後側のネジから締め付けてください。

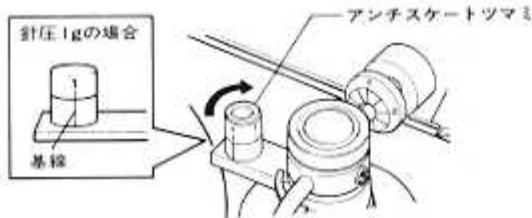


- トーンアームを上下に動かすときは、必ず印のところを持ってください。印以外を持つと、トーンアームの動作に悪影響を与えます。
- トーンアームを上下に動かすときは、針先でレコード盤を傷付けないように注意して行ってください。

- トーンアームをアームレストへ戻し、クランバーで固定します。

③アンチスケーティングの調整

アンチスケートツマミを図の矢印の方向へ回し、加えた針圧と同じ数値を基線に合わせます。



アンチスケーティング機構とは

レコード演奏時、針先はレコード盤の回転により内周方向へ引っ張られる力(スケーティングフォース)を生じ、右チャネルのトレース能力の低下や、ひずみの増加などで再生音に悪影響を与えます。この力と反対方向に打消す力を加えて補正するのが、アンチスケーティング機構です。

④制動用オイルの注入

ダンピングツマミを外す

1. ダンピングツマミを止まるまで引き上げます(図A)。
2. ツマミを反時計方向(○)に回します(図B)。
3. ツマミを引き上げてください。ツマミはトーンアームから外れます(図C)。
4. 制動オイル注意ラベルを取り去ってください(図D)。

①ツマミを持ち上げる ②反時計方向に回す ③ツマミを外す ④制動オイル注意ラベル



図A

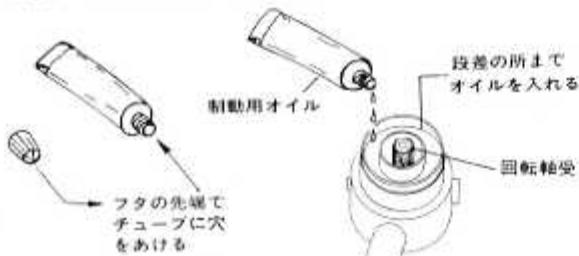
図B

図C

図D

オイルを注入する

1. 図のように、付属の制動用オイルのチューブにフタの先端で穴を開けます。そして、トーンアーム本体の制動オイル注意ラベルの入っていた溝に注入していきます。



2. 段差の部分までがオイルの適量です。オイルが図のように段差のところまで入ったら注入をやめてください(注入したオイルの表面が平らになるまでにやや時間がかかります)。オイルの入れ過ぎや不足は、ダンピング機構が正常に動かない原因となります。また回転軸受内やツマミ取付軸にはオイルを付着させないでください。感度不良を起す場合があります。

回転軸内に間違ってオイルを入れた場合は、お買い求めの販売店または、バイオニアのサービスセンター、サービスステーションへ御相談ください。

ダンピングツマミを取り付ける

1. ローレット部のみぞがピンに接触するように図Aの矢印方向にローレット部を回します。
2. ツマミの中の溝部と、トーンアームのツマミ取付軸に付いているピンの位置を合わせ、止まるまで押し下げます(図B)。
3. ツマミを図の矢印(△)に止まるまで回します(図C)。
4. ツマミを止まるまで押し下げます。この状態でダンピング機構が働きます。なお、ツマミが下がらない場合は、ツマミを左右どちらかへ少し回してから押し下げてください(図D)。



図A

図B

図C

図D

ダンピング機構の取扱上の注意

- オイル注入後は、絶対に本機を傾けないでください。オイルが回転軸の内部に流れ込んだり、外へ流れ出る場合があります。もし流れ出たときは、素早く布やティッシュペーパーなどで拭き取ってください。
- ダンピングツマミ取付後も傾けたり、ツマミを取り外さないでください。オイルが回転軸内へ流れ込み使用不能となります。特に移動する場合には、水平状態を保ったままで十分注意しながら行ってください。
- 本機を逆方へ移動するときや、引っ越しの場合には、必ず14頁の“本機の積運について”的に従ってください。

各部の名称と使い方

電源スイッチ(POWER)

本機の電源をON、OFFするときに使います。
スイッチを押し込むと電源が入ります(ON)。このとき、回転数切換スイッチのインジケーター(33)が点灯します。
スイッチを押し戻すと、電源が切れます(OFF)。

本機を使わないときは、必ず電源スイッチをOFFにしてください。

回転数切換スイッチ(SPEED)/インジケーター

レコード盤のスピードに合わせて、ターンテーブルの回転数を切り換えるときに使います。スイッチを押すと、次のようにターンテーブルの回転数が変わります。

33のインジケーターが点灯する場合

33- $\frac{1}{2}$ rpmで回転します。33- $\frac{1}{2}$ rpmのレコード盤を演奏するときにこの位置にしてください。

45のインジケーターが点灯する場合

45 rpmで回転します。45 rpmのレコード盤を演奏するときにこの位置にしてください。

クォーツロックインジケーター

ターンテーブルが33- $\frac{1}{2}$ rpm、または45 rpmの規定回転数で回っているときに点灯します。

回転数切換スイッチを操作して回転数を切り換えたときや、ターンテーブルを手などで持ててターンテーブルの回転数が一時的に変動した場合、インジケーターは消えますが、正常な回転数に戻ると点灯します。

モータースイッチ(START/STOP)

モーターの電源をON、OFFするときに使います。
ターンテーブルが停止しているときにスイッチを押すと、モーターの電源が入り、ターンテーブルが回り始めます(START)。
ターンテーブルが回転しているときに押すと、モーターの電源が切れ、ターンテーブルが止まります(STOP)。このとき、ブレーキ機構が働いて瞬時にターンテーブルが止まります。

ターンテーブル/ゴムシート

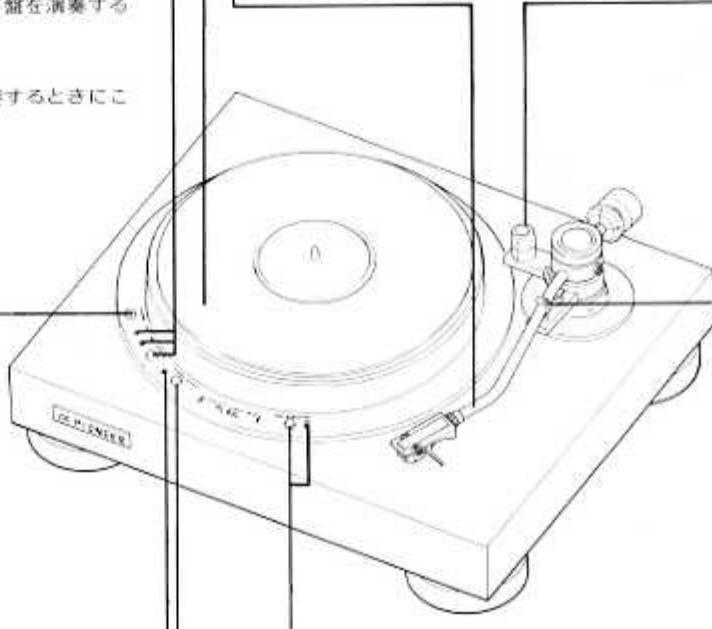
演奏時に、回転数切換スイッチに応じた回転数で回ります。ゴムシートは、レコード盤を安定させ、外部からの振動を吸収します。

トーンアーム

カートリッジに適正な針圧を与える、正確に保持してレコード盤の音みぞを確実にトレスさせます。

アンチスケートツマミ

レコード演奏時に発生する、有害なスケーティングフォースの打消し量を針圧に応じて調整します(10頁のアンチスケーティングの調整参照)。



アームエレベーションスイッチ(ARM-ELEVATION)/インジケーター(UP)

演奏を行うときや、演奏を中止する場合に使います(12~13頁を参照)。スイッチを押すと、トーンアームが次のように動作します。
UPのインジケーターが点灯する場合(UP)

トーンアームが上がりります。

UPのインジケーターが消える場合(DOWN)

トーンアームが下がります。

- スイッチは、交互にUP、DOWNに切り換わります。
- 電源スイッチをON、OFFにしたときは、常にUP状態となります。
- 演奏するときは、必ずDOWNの状態で行ってください。

アームレスト/クランバー

トーンアームを支えます。演奏しないときは、クランバーでトーンアームを固定しておきます。

演奏のしかた

演奏の前に

演奏を始める前に、必ず次の操作を行ってください。

ステレオアンプの操作

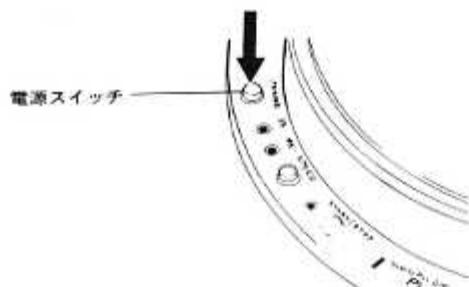
- 音量ツマミ(ボリューム)を最小の位置にします。
- 電源スイッチ(パワー)を入れます。
- 人力切換スイッチ(ファンクション)を PHONO の位置にします。

本機の操作

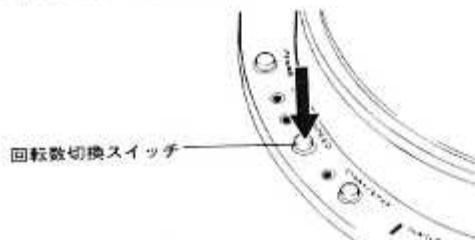
- ダストカバーを開き、ターンテーブルにレコード盤をのせます。
- カートリッジの針カバーを外してから、アームレストのクランパーを操作してトーンアームの固定を解除します。

演奏の開始

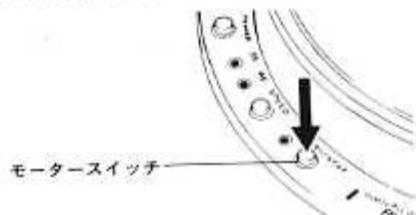
- 電源スイッチ(POWER)を押して、電源を入れます(ON)。



- 回転数切換スイッチ(SPEED)を、レコード盤に合わせて切り換えます(33または45)。



- モータースイッチ(START/STOP)を押して START します。ターンテーブルが回り始めます。次に、ヘッドシェルの指かけを持ち、トーンアームをレコード盤の演奏する位置まで移動します。



- アームエレベーションスイッチを押して DOWN にします。トーンアームが静かに降下して演奏を開始します。



- ダストカバーを静かに閉め、ステレオアンプでお好みの音量や音質に調整して、レコード演奏をお楽しみください。

演奏の終了

- 最終の曲が終わると、自動的にトーンアームが上昇してターンテーブルが止まります(オートアップ)。
- ヘッドシェルの指かけを持って、トーンアームをアームレストまで戻します。
- トーンアームをクランパーで固定してから、針カバーをカートリッジに取り付けます。
- レコード盤を外します。
- 本機の電源スイッチを押し戻して電源を切り(OFF)、ステレオアンプの電源スイッチを切ります。

●本機を使用しない場合は、必ず電源スイッチを切ってください。

レコード盤の手入れと保管について

- レコード盤のソリやキズ、ホコリやゴミが付着したままの使用は、再生音に悪影響を与えます(ソリ、キズは針飛びや雑音、ホコリの付着は音がひずんだり、針飛びの発生原因となります)。次の事項に注意してていねいに取り扱ってください。
- レコード盤を持つときは、音みぞの部分に直接触れないようにしてください。
 - 使用前と使用後は、必ず良質のクリーナーでホコリやゴミを取り除いてください。

- 保管場所は、温度、湿度の高い所を避け、直射日光の当たらない場所を選んでください。また、すき間ができるないようにレコード盤を垂直に立てて、何枚も並べて保管するのが理想的です。横に積み重ねて置くとソリが発生する原因となりますので注意してください(この場合は2~3枚が限度です)。
- レコード盤にキズやホコリが付かないように、定期的にプレーヤー本体やゴムシートの清掃を心掛けてください。

ダンピング機構の効果的な使い方

演奏の中止と曲目の変更

演奏を中止するときや、曲目の変更をする場合は次のように行います。

1. アームエレベーションスイッチを押してUPにします。
トーンアームが上昇して演奏を中断します（ターンテーブルは回ったままです）。
2. 中断したところから再び演奏を始めるときは、アームエレベーションスイッチを押してDOWNにします。他の曲に変更する場合は、手でトーンアームを移動してからアームエレベーションスイッチをDOWNにします。トーンアームが静かに降下して演奏を始めます。

演奏をそのまま中止するときは、トーンアームを手でアームレストに戻し、演奏の終了の2-5項に従ってプレーヤーを操作してください。なお、ターンテーブルを停止させる場合は、モータースイッチを使用してください。電源スイッチをOFFにしてターンテーブルを停止させると、ブレーキ機構が働かないため、止まるまで時間がかかります。

演奏上の注意

- 演奏前後は必ず柔らかいハケやブラシで針先を清掃し、レコード盤面を真質のクリーナーなどで清掃するようこころがけてください。
- ターンテーブルには演奏するレコード盤を1枚だけのせてください。2枚以上のせるとレコードの音みぞにカートリッジの針先の角度が正しく接しないため正常な演奏ができません。
- 演奏中にターンテーブルを手などで押えないでください。故障の原因となります。
- 演奏中にアンプの電源スイッチを切ったり、プレーヤーの電源コードを抜いてターンテーブルの回転を止めないでください。針先やレコード盤を傷めます。

本機のダンピング機構は、低音域再生で発生するトーンアームの共振をオイルの粘性を利用して制動し、トレース能力の向上と混音歪みの低減を図っています。これにより、カートリッジの特性を引き出し、再生音全域にわたって量感のある再生音をお楽しみいただけます。なお、カートリッジの中には制動を行わない方が良い結果が出ることがありますので、次のダンピング機構を使用した場合と解除した場合の再生音を比較して、お好みの音質で再生するようにお使いください。

ダンピング機構を使用する場合

10頁のダンピングツマミを取り付けるの項を参照して、ダンピング機構が働く状態にしてください。

ダンピング機構を解除する場合

解除すると、通常の高感度トーンアームとしてご使用いただけます。

1. ダンピングツマミを止まるまで引き上げます。
2. ツマミを反時計方向(○)へ止まるまで回します。この状態で機構が解除します。
3. 完全に解除するまで約1分間かかります。解除してから1分間この状態で放置してください。

ダンピング機構を取り扱う場合の注意

- 演奏中は、ダンピングツマミを操作しないでください。針飛びを起し、レコード盤や針先を傷めます。操作する場合は、トーンアームをアームレストまで戻してから行ってください。
- 針圧の調整でダンピング機構を解除した場合は、完全に解除するのを待ってから(解除してから約1分間)調整してください。

ご注意

引越等でダンピングツマミをトーンアームから外す場合は、オイルの流入を防ぐため、必ず上記に従ってダンピング機構を解除し、解除状態で1時間以上放置してから、外してください。

別売パーツとしてダンピング調整用ツマミJP-506を用意しています。このツマミをご使用になると、ダンピング時の制動量を変化させ、各種カートリッジの特性に合わせて、ダンピングファクターを調整することができます。詳しくは、別紙の“別売パーツJP-506、507の使い方”をご覧ください。

保 守

キャビネットとダストカバーの手入れ

キャビネットやダストカバーが汚れたりホコリが付いたときは柔らかな乾いた布で拭き取ってください。家具用ワックスやシンナー、ベンジンなどを使うと表面が侵されますので使わないでください。

ゴムシートの手入れ

ゴムシートが汚れた場合は、5~6倍にうすめた中性洗剤をスポンジなどに含ませてよく洗います。次によく水洗いをして風通しのよいところで乾燥してください。熱や直射日光で乾燥すると、変形したり変色することがありますので絶対にやめてください。

針先の手入れ

カートリッジの針先にゴミが付着しますと、再生音がひずんだり、音が飛んだりすることがあります。柔らかいハケやブラシを用いて針先をいつもきれいに清掃しておいてください。なお、指で針先のゴミを取ると針先を損傷することがありますのでやめください。

注油について

このプレーヤーのモーター軸・軸受部は、注油の必要はありません。また、トーンアーム軸受などへの注油も故障の原因となりますのでやめてください。

本機の輸送について

引っ越しなどで本機を移動するときは、オイル槽に注入された制動用オイルが漏れないよう、次のように輸送用キャップを取り付け、水平状態で輸送してください。

- トーンアームが動かないようにアームレストに固定します。
- ダンピングツマミを止まるまで引き上げます(図A)。
- ダンピングツマミを反時計方向(○)に止まるまで回します。この状態でオイルが完全に落ちるまで1時間以上放置してください(図B)。
- ダンピングツマミを引き上げて、トーンアームから外します(図C)。
- 付属の輸送用キャップでフタをします(図D)。このとき、キャップは1~2mmのスキ間があさますが無理に押し込まないようにしてください(図E)。

一週間以上もかかる長距離の輸送をする場合は、制動用オイルをチリ紙や詰棒などで全部ふき取り、輸送後改めて注入します(10頁の“(4)制動用オイルの注入”の項参照)。

- 輸送用キャップがはずれないように、粘着テープなどで固定します(図E)。
- 輸送が終わって水平に設置した後も、すぐに輸送用キャップを外さずにオイルが安定するまで1時間以上放置してください。

また、輸送用キャップを外すときはオイルが漏れないよう慎重に外してください。

制動用オイルが減っていたり、長距離輸送のためふき取った場合は、お近くのサービスセンター、サービスステーションで制動用オイルをお求めになり適量まで再注入してください。

図A



ダンピングツマミを止まるまで上に引き上げる。

図B



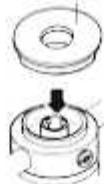
制動フィンについている制動オイルを、オイル槽に落すため、このままの状態で1時間以上放置。

図C

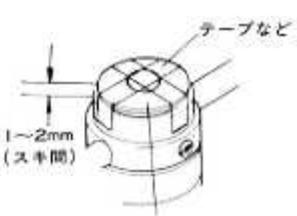


慎重に、ゆっくりと垂直に持ち上げる。このとき、オイルがアームの中心部に流入しないように詰棒などで上手にオイルを取り去る。

図D 輸送用キャップ



図E



輸送用キャップ

故障? ちょっとお調べください

症 状	推 定 き れ る 原 因	処 置	参 照 頁
ターンテーブルが回らない	●電源プラグがコンセントから抜けている ●ステレオアンプの電源スイッチと連動している予備電源コンセント (SWITCHED) に差し込んだ場合で、ステレオアンプの電源スイッチが切れている	●ステレオアンプ、または壁のコンセントに差し込む ●ステレオアンプの電源スイッチを入れる(ON)	7頁
音がない	●出力コードの接続が不完全 ●ヘッドシェルの取り付けが不完全 ●カートリッジとヘッドシェルの接続が不完全 ●ヘッドシェルとアーム接続部の汚れ ●ステレオアンプの操作を間違えている	●確実にステレオアンプと接続する ●トーンアームのロックネジを確実に締め付ける ●確実にヘッドシェルとカートリッジを接続する ●接続部を無水アルコールで清掃する ●ステレオアンプの各スイッチの位置を確認する	7頁 6頁 5頁
雑音、スクラッチノイズ(バチ、バチという雑音)が出る	●レコード盤にホコリやゴミが付いている ●レコード盤にソリやキスがある	●レコード盤をクリーナーなどで清掃する ●レコード盤を交換する	12頁
音が飛ぶ 音がりすむ	●針圧が適正でない ●カートリッジの針先にゴミやホコリが付いている ●カートリッジの針先が摩耗している ●レコード盤にホコリやゴミが付いている ●レコード盤にソリやキスがある	●カートリッジに合った針圧を加える ●針先をブラシやハケで清掃する ●針先を交換する ●レコード盤をクリーナーなどで清掃する ●レコード盤を交換する	8頁 14頁 12頁
ハウリングを起す 演奏中に音を大きくするとスピーカーシステムからウォーンとうなるような音が出る	●スピーカーシステムの振動が床からレコード盤やカートリッジに伝わっている ●スピーカーシステムの音圧が直接カートリッジに伝わっている	●プレーヤーをスピーカーシステムから離す ●プレーヤーをしつかりした台などの上にのせる ●プレーヤーの設置場所を変えてみる	
ハム音が出る スピーカーシステムからフーンという雑音が出る	●出力コードやアース線の接続が不完全 ●ヘッドシェルの取り付けが不完全 ●カートリッジとリード線の接続が不完全 ●ステレオアンプのパワートランジストの過熱などの影響を受けている	●確実に出力コードやアース線をステレオアンプへ接続する ●トーンアームのロックネジを確実に締め付ける ●確実にヘッドシェルとカートリッジを接続する ●ステレオアンプとプレーヤーの設置場所を変えてみる	7頁 6頁 5頁
音のテンポがおかしい	●回転数切換スイッチがレコード盤のスピードと合っていない	●レコード盤に合った位置に切り換える(33または45)	11頁

アームレスト、アームエレベーションの調整

通常は調整の必要はありません。固定ネジがゆるんだ場合などに行ってください。

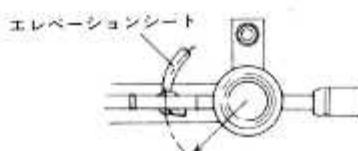
アームレストの調整

トーンアームをアームレストに固定し、アームレストを上下に動かしてトーンアームをキャビネットと平行にします。次に、付属の六角レンチ(小)でアームレスト固定ネジを回してアームレストを固定します。

アームエレベーションの調整

1. 電源スイッチを押して電源を切ります(OFF)。
2. トーンアームをレコード盤上へ移動し、針先とレコード盤の距離が約8mmになるようにアームエレベーショ

ンを上下に調整して、付属のドライバーでアームエレベーション固定ネジを回して固定します。このときに、図のようにアームエレベーションシートとアームが同心円になるように注意してください。同心円でないとアームがエレベーションシートからはずれる場合があります。



仕様

フォノモーター、ターンテーブル

モーター型式	クオーツPLL DCホールモーター
駆動方式	ダイレクトドライブ方式
回転数	33 1/3, 45rpm 2スピード
ワウフランサー	0.012%WRMS ————— *FG法 0.023%WRMS(JIS) ————— レコード法
	*FG法はターンテーブルの到極周波数(FG)からワウフランサーを測定する方法です。
S/N	65dB(JIS), 78dB(DIN-B)
ターンテーブル	直径310mmアルミダイキャスト
慣性質量	330kg・cm ² (ゴムシート含む)
モーター特性	
負荷変動	0%(針圧200g以下)
起動特性	1/2回転以下
回転数偏差	0.002%以下
ドリフト	時間;0.00008%/h 温度;0.00003%/°C

トーンアーム

型式	スタチックバランス方式、S字型
実効長	250mm
オーバーハング	14mm
適合カートリッジ自重	4-13g
	(10g以上はサブウェイト使用)

高さ調整範囲 ± 3 mm

使用半導体

IC	9
トランジスター	13
ダイオード	6
ホール素子	4
LED	4
水晶振動子	1

付属機構

オートアップ機構
クイックストップ機構
アンチスケーティング機構
アームエレベーション機構
針圧直読ウエイト
プラグイン式ヘッドシェル

電源、その他

供給電源	AC100V 50/60Hz兼用
消費電力(電気用品取締法)	13W
外形寸法	490(幅)×190(高さ)×401(奥行)mm
正味重量	15kg

付属品

EPアダプター	1
制動用オイル	1
ドライバー	1
六角レンチ	2
針先位置調整ゲージ	1
輸送用キャップ	1
取扱説明書	1
保証書	1
サービスネットワーク	1

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

別売パーツJP-506, 507の使い方

本機をより効果的にお使いになられる方のために、バイオニアでは、JP-506(ダンピング調整用ツマミ)とJP-507(バランスウェイト)を別売しています。

別売パーツをご使用になる場合は、本機の取扱説明書とこの別売パーツの使い方をよくお読みになって、正しくお使いください。

JP-506(ダンピング調整用ツマミ)

本機のダンピング機構は、トーンアームが超低域で発生する共振を、オイルの粘性を利用して制動しています。JP-506をお使いになると、この共振の制動量(ダンピングファクター)を調整することができます。制動量を大きくしたり、小さくすることにより、再生音が微妙に変わりますので、各種カートリッジに合った特性を引き出すことが可能です。

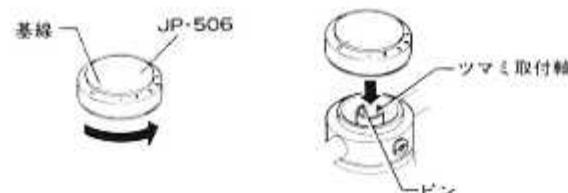
取り付け方

プレーヤー付属のダンピングツマミとJP-506を次のように交換してください。

1. ツマミを止まるまで引き上げます。
2. ツマミを図の矢印方向(○)に止まるまで回します。
この状態で、必ず中の制御用オイルが下に落ちるまで1時間以上放置してください。
3. ツマミを引き上げて、トーンアームから外します。



4. JP-506の基線に“0”の位置を合わせます(必ずこの操作を行ってください。“0”以外の位置で行うと、取り付かない場合があります)。
5. トーンアームのツマミ取付軸に付いているピンと、JP-506の溝の位置を合わせ、止まるまで静かに押し下げます。ツマミが下がらない場合は、ツマミを左右へ少し回してから押し下げてください。



ダンピングファクターを調整する場合

ダンピングツマミを回し、1~5のいずれかの数値を基線に合わせます。ダンピングファクターは、ツマミの数値が大きくなるほど制動量が増加します。なお、次の表はダンピングファクターの調整例を示します。ダンピングファクターの設定の目安にしてください。

カートリッジのコンプライアンスによる調整例

コンプライアンス	ダンピングファクター目盛
ローコンプライアンス	2~4
ハイコンプライアンス	1~3

各社カートリッジのダンピングファクター調整例

カートリッジ	ダンピングファクター目盛
バイオニア PC-1000/II	1~3
バイオニア PS-800	1~3
ショア V-15/III	1~3
ショア V-15/IV	1~3
A D C XLM MKII	1~3
エンパイア 4000 DIII	1~3
デンオレン DL-1030	2~4
オルトフォン MC-20	2~4
オルトフォン SPU/GT	2~4

ダンピング機構を解除する場合

カートリッジの中には、制動を行わない方が良い結果が出るものもあります。この場合は、ダンピングツマミの“0”を基線に合わせてください。ダンピング機構が解除され、通常の高感度トーンアームとしてご使用になります。なお、完全に解除するまでに約1分間かかります。ご使用になる場合は、解除してから1分以上放置してください。

ダンピング機構を取り扱う場合の注意

プレーヤーの取扱説明書の13頁を参照してください。

JP-507(重量級カートリッジ用バランスウェイト)

お使いになるカートリッジの自重が13g以上(オルトフォンSPU/GTなど)の場合に、お買い求めの上ご使用ください。

なお、JP-507使用時は13g~24gまでのカートリッジの取り付けが可能です。

取り付け方

プレーヤーに付属しているバランスウェイトと同じです。プレーヤーの取扱説明書6頁の“バランスウェイトの取付”的項に従ってください。この場合、JP-507だけを取り付け、プレーヤーに付属しているバランスウェイトとリバウエイトは取り付けないでください。

トーンアームの調整(8~10頁参照)

基本的には、プレーヤーに付属のバランスウェイトを取り付けた場合と同じですが、カウンターリングの目盛の位置が変わりますので、針圧の調整を行う場合に注意してください。

カウンターリングのひと目盛0.1gが0.15gになりますので次のように換算して、針圧を加えてください。

カウンターリングの目盛	針圧(g)	カウンターリングの目盛	針圧(g)
0	0	0.6	0.9
0.2	0.3	0.8	1.2
0.4	0.6	0(1回転時)	1.5

ご使用の前に必ずお読み下さい

本機の特長であるダンピング機構を正しくご使用いただく為に次の手順でつまみのとりはずし、とりつけを行って下さい。

① ダンピングつまみのとりはずし方

A図の様に、イチ、ニイ、サンの順で行って下さい。



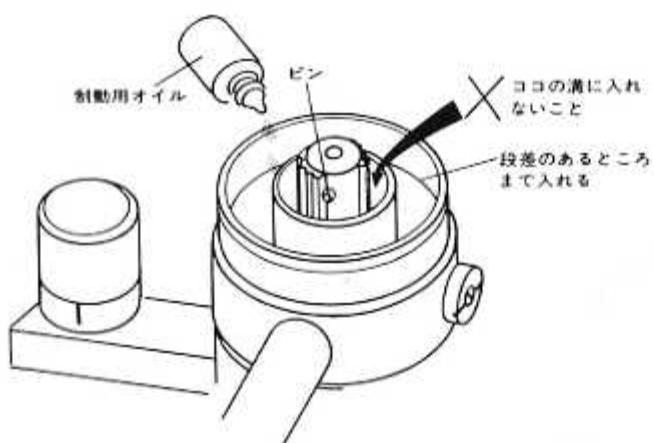
図A

注意

つまみをA図の矢印方向にまわしてとまつた時、無理な力をかけてまわさないで下さい。

② 制動オイルの注入の仕方

B図の様に制動オイルを指定の場所に注意して注入して下さい。



図B

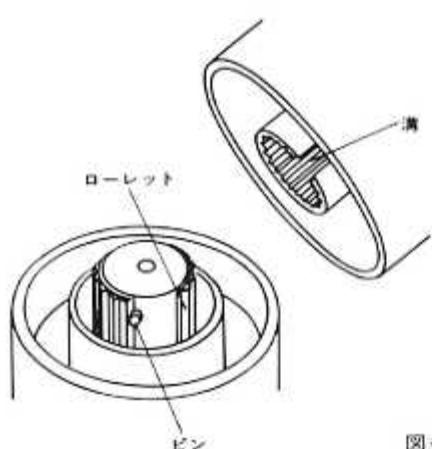
引越し等の本体の移動時は必ずオイルをティッシュペーパー等でふき取って下さい。くわしくは取扱説明書をお読み下さい。

③ ダンピングつまみのとりつけ方

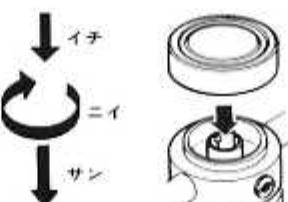
イ. C図の様に軸に取り付けられているピンがローレットの左側にくる様ローレットをまわしてとめて下さい。

ロ. ダンピングツマミの溝(C図)がピンに入る様にあわせて下さい。

ハ. D図の様にイチ、ニイ、サンの順でとりつけて下さい。



図C



図D